

令和元年6月24日現在

機関番号：36102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370781

研究課題名(和文) 東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Quarries for Building Osaka Castle and Transportation of Stone Materials by Water in Island Area of Eastern Seto Inland Sea

研究代表者

橋詰 茂 (HASHIZUME, SHIGERU)

徳島文理大学・文学部・教授

研究者番号：40462072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：小豆島における大坂城築城石丁場に関して、文献史料と考古学・地理学的調査を併せての研究を行った。島内外の文献史料の収集と、島内の石丁場推定地を調査し、それを対比しながら確定作業を行った。特に石材搬出地を把握するため海岸部を綿密に調査し、新たな石丁場の確定や刻印石・海中に沈んだ残石を発見した。

調査結果を報告書にまとめた。文献史料の翻刻文、矢穴・刻印拓本写真、その他図版を多く取り入れ、また4本の論考を収録して小豆島石丁場の詳細な内容が理解できるようにしている。小豆島全体を見据えた報告書は今までになかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小豆島の石丁場に関して、文献史料と考古学的調査を併せた調査研究により、従来不明であった石丁場の所在地が確認されるとともに、刻印石や残石の発見により新たな石丁場が確定された。

報告書により多くの情報を提供、島民に地域に残る文化財をいかに保全していくかを考える材料にしている。また「備讃諸島石の島の物語」として小豆島の石の文化が日本遺産に認定されたが、当該研究がそこに至るうえで寄与したものと見える。

研究成果の概要(英文)：I did a philological, archeological and geological research on quarries for building Osaka Castle in Shodoshima Island. I collected historical documents, examined estimated candidates for quarry sites in the island, and compared them to determine which of them were actual quarries. In particular, I investigated the coast closely to know from where stones were carried out of the island, finding out new quarries and relevant stones sunk under the sea.

I made a report on the results of this research. The report includes historical documents set in type, photographs of rubbing of engraved stones and plug-and-feather holes, and many other graphics. It also includes four academic papers so that one can understand details about quarries on Shodoshima Island. Since there have been no reports concerning the whole island, I believe this will be a fundamental document for future study.

研究分野：日本史

キーワード：小豆島 石丁場 大坂城

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

徳川氏の大坂城再建の際に石垣石の採石のため石丁場が瀬戸内海沿岸一帯に求められた。小豆島をはじめ塩飽諸島・犬島など島嶼部には各地の大名がこぞって石丁場を求めた。特に小豆島では最も多くの大名の存在が確認できる。小豆島は土庄町・小豆島町の二町からなり、島内各地に石丁場跡と残石があり、早い時期からそれらの調査研究が進められてきた。小豆島町にある岩谷丁場は筑前福岡藩黒田氏の石丁場跡であり、1972年に国指定史跡となる。土庄町には肥後熊本藩加藤氏、豊前小倉藩細川氏によって開かれた石丁場跡が県指定となるなど、大坂城築城に関する貴重な文化遺跡として存在している。これ以外にも残された石丁場跡があるが、従来は考古学的な研究に主体が置かれ、文献資料に基づいた研究は進展していない。わずかに島内に残る限られた文献資料に依拠して、大名と石丁場の関係を示したにすぎない。だが、現存する石丁場跡が大坂城築城石丁場と築城後拓かれたものとの区分がされていない。限定された文献資料だけでは、十分な説明がされないままであり、本来の大坂城築城の状況過程が明らかにされない。また、築城完了後の石材がどのように活用されたか否かの研究は皆無である。築城完了後の石材搬出はあったはずだが、それがどのような仕組のもとで搬出されたかは明らかでない。

また、産出した石材をどのように運搬したかは、学会でも明確な説はだされていない。小豆島の庄屋宅に残る史料調査を実施しある程度の成果をあげたが、全体の状況を得るに至らない。また小豆島町で25年度から古文書調査が開始されたが、一地域の史料だけでは研究の限界がある。小豆島と塩飽諸島を一体化し、文献資料と考古学的資料を併せての研究により、全貌が明らかになると考える。

2. 研究の目的

徳川氏による大坂城再建の際に瀬戸内海島嶼部から多量の石材が搬出された。現在、石丁場跡は国及び県・町指定史跡となっている箇所もあるが、未調査のままで破壊が進んでいる箇所がいくつも見られる。従来は石丁場及び残石状況が注目され、文献資料による研究が少ない。

また築城に際しての石材搬出輸送状況の研究は皆無である。未調査の資料が埋もれており、それらを調査研究して瀬戸内海島嶼部に石丁場が設定された要因、石材切り出し技術、石材輸送体制、権力者による島統治などそれが島にその後どのような影響を及ぼしたかを明らかにする。

とともに、本研究を基として瀬戸内海地域の政治的・社会的状況を島と海からの視点で捉え直し、地域社会のあり方を再検討する道筋をつけることを目的とする。

3. 研究の方法

大きく二本の柱を立てる。一つは文献資料の調査であり、もう一つは石丁場跡の考古・地理学的資料調査である。文献資料は小豆島及び塩飽諸島の石材関係資料所蔵者宅での文書調査を実施する。それと並行して、県外の資料所蔵機関へ出張し、大家の関連資料の調査を実施する。調査資料を作成し、文献資料に表れた石丁場跡の推定地を調査し、それを対比しながら確定作業を行う。石丁場跡について、現地の残石等の現状調査と地理的環境について実測をとまなう調査を実施する。また採石技術等の推定を図る。収集した資料を分析、データ化し、今後の研究の基礎資料とする。

4. 研究成果

文献資料調査として、自治体史・報告書・資料集等から、関連史料の検索を行うとともに、東京大学史料編纂所をはじめ、熊本大学図書館(永青文庫文書)・八代市立博物館未来の森ミュージアム(松井文庫所蔵文書)等関連史料所蔵機関での調査を実施して史料の収集に努めた。とくに、

中川氏関係史料の検証から、従来不明であった堀尾氏・藤堂氏の状況を明らかにすることができたことは成果といえる。

小豆島では島内の各家所蔵文書調査を実施、黒田家の石丁場番人の末裔と伝えられている石本家の幕末和田岬砲台に係る史料を採集した。土庄町の旧庄屋家所蔵文書調査を実施し、旧土庄村庄屋であった笠井家調査では、元和期から江戸時代中頃にかけての石材関連史料40数点を採集、また慶長10年小豆島絵図の詳細な調査を実施し、幕府提出直前の控図であることが判明、正保絵図とともに香川県指定文化財に申請し指定を受ける。旧小海村庄屋三宅家の調査により、明暦以降の石材関係史料を収集した。以前の文書類は消失して残存していなかった。

石丁場跡の調査は、小豆島海岸部丁場跡の調査を主にして11回実働延べ25日間実施した。ここでは、文献資料記載事項との整合性を確認した。そして文献に見える石丁場の現地比定何カ所か明らかにすることができた。

文献にわずかに記されているが、今まで未調査であった千振島石丁場跡を本格的に調査した。岩礁に刻まれた矢穴のシリコンによる型取りをするとともに、正保小豆島絵図の記載からもとは島状で木々が茂っていたことが判明した。長年の波による浸食結果であることが明らかになった。一方、島東部海岸線の調査から、いくつかの新たなことがわかった。まず八人石丁場海岸部では海中から角石とみられる石を多数発見、ここから石を積み出したことが明らかになるとともに、この石丁場から集中的に角石が採石されたとして特定できた。また今まで不明であった藤堂家の石丁場から刻印がある石を発見したことは大きな成果である。

各石丁場跡の種石に残る矢穴をシリコンによる型取りをしたが、石丁場で大きな差違がみられ、それぞれの大名が抱える石工の特徴が表れていると考えられる。また大坂城石垣に残る刻印と比較するため、残石の刻印の拓本を採取して資料化をはかる。一方、小豆島から輸送された石材の陸揚げ場を文献から見出すだけでなく、現地でその場所を確認することができた。そして海岸線の調査だけでなく、山間部を確認するためドローンを用いての空中からの調査を進めた。その結果新たな巨石の矢穴を発見するなど予想以上の成果をあげた。

各石丁場の復元を図るために、石丁場跡や残石の測量をし、図面化を行った。また、矢穴の拓本採取や写真撮影などを行い、資料化を図る。従来ほとんどの石丁場では詳細な調査がされていないため、多くの情報を入手することができた。収集した資料を分析、データ化して今後の研究の基礎資料となったといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

- 1 橋詰 茂「土庄村大庄屋笠井家と慶長小豆島絵図について」、査読無、『香川史学』43号、2016、65-73
- 2 橋詰 茂「小豆島の大坂城築城石丁場と石材搬出に係る諸問題」、査読無、『香川史学』42号、2015、17-32

〔学会発表〕(計1件)

磯永和貴「慶長小豆島絵図の作成方法」、人文地理学会、2014

〔図書〕(計2件)

- 1 橋詰 茂他、岩田書院、『戦国・近世初期 西と東の地域社会』、2019、515
- 2 橋詰 茂他、科研費成果報告書、『東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究』、2019、127

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：清水 真一
ローマ字氏名：SHIMIZU shinichi
所属研究機関名：徳島文理大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70359446

研究分担者氏名：古田 昇
ローマ字氏名：FURUTA noboru
所属研究機関名：徳島文理大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：30299333

(2)研究協力者

研究協力者氏名：高田 祐一
ローマ字氏名：TAKADA yuichi

研究協力者氏名：福家 恭
ローマ字氏名：FUKE yasushi

研究協力者氏名：大嶋 和則
ローマ字氏名：OOSHIMA kazinori

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。